

ふじさん

fujijoho group monthly magazine

～ 2021年指針 ～

富士情報

進化する進化
進化する真価

渡辺努会長が急逝されました

弔辞・・・堀内 茂 富士吉田市長

社内報再掲載・・・継承と創造（2008年4月）

社屋落成から一年経って（1978年10月）

父の逝く背を偲んで・・・渡辺 直企 社長

- ・引き続き予防対策の実践を！・・・新型コロナウイルス + インフルエンザ
- ・確かな安全運転を身につけるための
事故実態テスト②



紅富士の湯 露天風呂の紅葉と富士山

写真提供：山中湖村 観光産業課

渡辺努会長が急逝されました



渡辺努会長が10月31日に急性心筋梗塞のためご自宅で急逝されました。前日までたくさんの人が元気なお姿を拝見していただけに、あまりに突然のことで、誰もが絶句し、深い悲しみに包まれました、

出棺の際にはご自宅前に大勢のボーイスカウト隊員などが、本社前では本社、山梨事業部の全社員がお見送りをしました。

葬儀は渡辺家と富士情報の合同で行われ、葬儀委員長は堀内茂富士吉田市長が務められました。通夜、葬儀には堀内詔子大臣、長崎幸太郎山梨県知事、堀内光一郎富士急行社長をはじめ各界の方々が大勢参列されました。

弔 辞

富士吉田市長 堀内 茂

本日ここに、故 渡辺努様の告別式が執り行われるにあたり、ご逝去を心からお悔やみ申し上げますとともに、謹んで哀悼の意を表し、お別れの言葉を申し上げます。

あまりに突然の訃報に接し、気持ちの整理がつかずにあります。

先月、会社に会長をお訪ねした際には、とてもお元気そうで、アフターコロナでの施策の展開について教を請うたばかりでしたのに、こうして努会長の遺影を見上げ、お別れの言葉を述べなければならないことが、まだ信じられません。

ご家族の失うところの大きさは、私などとは比べるべくもなく、深い悲しみに耐えるご家族のご心中を察するとき、何とお慰めしてよいか、言葉もありません。

思い返せば、努会長と初めてお会いしたのは、今から45年前、私が富士吉田に婿に来てすぐのことでした。

会長は、当時からすでに、地域を代表する企業、「富士情報」のトップとして、ゆるぎない信念を持ち、ご自身の会社だけでなく、地域経済をも引っ張っておられました。もともと先代同氏が懇意にしていた関係で、私も会長とのご縁に恵まれました。以来、何度かお会いするうちに、恐縮する私にいつも笑顔で接して下さり、常に対等な視線で、分け隔てなく接して下さいました。会長は、東京から来た私を、色々な機会を作り、外に連れ出してくれました。会長にお供して様々な方と出会い、様々な景色を見ることで、だんだんと富士吉田が、愛すべきふるさととして身体に染み込んでいったことを覚えております。

会長は、昭和13年7月生まれ、私の10歳先輩で、私にとっては、本当にありがたく、かけがえない兄であり、恩師でもありました。



私に向けてくれたように、その笑顔は、地域の子どもたちにも向けられ、ボーイスカウトの団委員長が空席になって困っていると聞かぬや、自らその役を買って出られ、自分の子どもや、孫の世代の子どもたちの成長を見守り続けました。こうした献身的な活動が広く伝わり、請われて県と市の教育委員長などを歴任され、市のみならず、山梨県の未来を担う若者たちが、将来に希望を持つことができるよう、人材育成においても、様々な功績を残されたことは、お集りの皆様のご承知のとおりであります。

また、子どもたちを想う心は、必然、子どもたちを育む、地域全体へと広がり、会長は、富士吉田西ロータリークラブの活動も、自ら中心となり、ご活躍されておりました。ロータリークラブの基本理念に「四つのテスト」があります。「真実かどうか」、「みんなに公平か」、「好意と友情を深めるか」、「みんなのためになるかどうか」、という4項目ですが、努会長は、まさにこれを実践し、体現しておられました。私が政治の道を志し、相談させていただいた際も、応援の条件として、「政治家として公平・公正であること、そして、清く、正しい信念を持つこと」を挙げられ、私の後援会「富士吉田の未来を創る会」の会長を引き受けてくださりました。以後、その言葉は私の政治活動の羅針盤となっております。

まだ一般家庭はおろか、企業にさえパソコンなど無く、「情報サービス」という言葉すら耳にしない時代、努会長は、事務のコンピュータ化が到来することを見越して起業され、常に未来を見据えたロードマップを描いておられました、

突然帰らぬ旅に赴くことになろうとは、ご自身が、一番驚いておられるかもしれません。いくら先を見通せる目を持っていた会長でも、今回ばかりはわからなかったのでしょうか…。

まだまだ教えていただきたいこと、ご相談したいこと、振り返りたい思い出話、会長とお話したいことが山ほどあります。本当に残念でなりません。

それでも努会長、ご安心ください。努会長の背中を見ながら、立派に成長された直企社長が、あなたの遺志をしっかりと引継ぎ、会社を、そして、この地域を、さらに大きくしていってくれることでしょう。

直企社長を先頭に、ご家族とともに、新しい時代を懸命に生きてまいりたいと思いますので、どうか、変わらぬあの優しい眼差しで見守っててください。

本日、ご親族の皆さまをはじめ、ご厚誼のありました多くの皆様が、相集い、悲しいお別れの式に列しておられます。努会長を慕い、深い信頼で結ばれた参列者の皆様とともに、心からご冥福をお祈り申し上げます。私の弔辞といたします。 合掌



会長の遺影は2008年の入社式のときに撮影されたものです。この年の6月に渡辺努社長が会長に、渡辺直企専務が社長に就任し、新体制がスタートしました。ちょうど創業35周年の年にあたり、社内報4月号には「継承と創造」と題して、また1978年10月号には社屋を建てて1年経ったときの創業者としての想いがそれぞれ綴られています。さらなる飛躍を期待する亡き会長の社員へのメッセージとして再掲載しました。

社内報2008年4月号 継承と創造

昭和48年にわずか6人の女性社員と、富士計算センターという社名のパンチセンターとしてスタートした小さな会社が、創業35周年を迎えて総勢300人の会社に成長しました。環境の厳しい富士北麓の杉やヒノキは、成長が遅い代わりに年輪が詰まって丈夫な木材に育つように、会社は35年をかけて幅は狭いものの着実に年輪を重ねてきました。創業のころに目標にしていた地域の会社がこの間にいくつも消えてしまったことを考えると、経営理念や個人としての考え方を貫き通してきたことが良かったのだと思っています。たとえばバブルと言われた高度成長期には銀行からも盛んに融資の話があり、多くの経営者が株や不動産など本業以外のことに投資していましたが、それらの誘いには耳を傾けずに本業のみに専念してきました。個人的にも自ら政治には手を出さない、株に手を出さない、外車に乗らないという三つを約束し、実践してきました。こうした地道な経営姿勢が今日につながってきたのだと確信しています。創業以来、「正確・信頼」を社是とし、仕事を正確にすること、お得意先のみならず社員や地域との信頼関係を大事にすることを信条として実践してきました。こうした姿勢のおかげでたくさんのお得意様にも恵まれました。これまでに仕事のやり方や会社の姿勢に問題があって取引を中止されたことが一度もないことを皆さんも誇りにしていただきたいと思います。

35周年を機会に社員の皆さんには長い歴史の中で汗を流して頑張っていたいただいた先輩社員の足跡を振り返り、その精神をぜひ理解していただきたいと思います。そしてそれをベースに

して、これからはその延長線ではなく、新しい発想で、どのような環境にも順応できるよう常に進化して欲しいと思います。キーワードは「継承と創造」です。これをしっかりと心に刻み、創立40年、50年に向かってさらに飛躍できるよう、皆さんの力を発揮してください。次世代の人たちにも立派な会社として引き継いでいくために、今いる皆さんでぜひ新生富士情報報を作ってください。

故 渡辺努会長の主な経歴

- ・昭和13年(1938年)7月東京生まれ
- ・山梨県立吉田高等学校卒
- ・富士急行(株)を経て昭和48年4月(株)富士計算センター(現 富士情報)を設立、代表取締役となる。
．．．．．
- ・(株)富士情報ならびに(株)丸久の代表取締役
- ・山梨県教育委員長
- ・山梨県長期計画審議会 人づくり部会長
- ・山梨県新教育ビジョン策定委員会委員
- ・ボーイスカウト山梨県連盟理事
- ・富士吉田商工会議所常議員
- ・富士吉田市教育委員長
- ・富士吉田市都市計画審議会会長
- ・富士吉田文化振興協会副理事長
- ・富士吉田西ロータリークラブ会長
- ・山梨県立吉田高等学校同窓会長



社内報1978年10月号
社屋落成から一年経って

早いもので、昨年の10月12日に新社屋の落成式をしたのですが、もう一年経ちました。

考えてみますと、社屋の新築は会社の得意先に対する営業上の信用向上と、地域に対して会社の存在を認識せしめるという面では、計り知れない効果がありました。目下、会社の営業面や求人、それに地域での渉外など、至極好循環で、その実績はすばらしいものです。

「衣は威なり」という言葉がありますが、外見による評価がいかに絶対的なものかを身をもって知ったものです。当時してみれば土地と建物の取得、それにキーツディスクの導入と、経営的には若干無理な面もあったのです

が、今考えると思い切った方針で進んだことが良かったのだと思います。

会社もようやく外部からなんとか一人前として認めもらえる様になって来た訳です。こうして形の遂次整っていく中で、中味も「正確」「信頼」の社訓を皆さんで実践してくれていますので、すばらしい社風が出来上がって来ました。

今から会社はどんどん新しい施策を以って、規模も事業内容も大きく伸展させていく方針ですが、およそ会社の発展拡大とは反比例に会社の良い社風が崩れてしまい、経営不振に陥る例がよくあります。

当社にあっては、会社がここまで伸びる礎となった「正確」「信頼」の社風を、いつまでも堅持し、会社が私たちの単なる「仕事場」でなく、人間形成のすばらしい場となるよう立派な会社にしていくではありませんか。

父の逝く背を偲んで

社長 渡辺直企

令和3年10月31日、父 渡辺努は永遠の眠りにつきました。満83歳の実り多い生涯でした。在りし日を偲べば、いつも自分の心に正直に生き、わが道をまっすぐに歩んだ面影が浮かんでまいります。

35歳のときに会社を設立して以来、信頼が大事だと真摯に仕事に取り組み、邁進してきた父。一緒に仕事をするようになり、価値観の違いからぶつかることも多々ありましたが、次第に見守ってくれるようになった気がいたします。あと一年半で創立50周年を迎えようかというときに旅立ちを迎えたことは、本人にとっても無念だったでしょう。しかし支えてくださった皆様の存在があったからこそ、社業のみならずボーイスカウトや教育委員、ロータリークラブの活動など、父が父らしく最後まで充実した日々を送れたのだと、家族一同感謝の気持ちは尽きません。

仕事だけでなく遊びにも真剣に取り組み、余暇に仲間とゴルフを楽しんでいた姿や、孫たちを溺愛していた様子、毎年家族で旅行に出かけた思い出など、振り返る程に別れはつらいですが…これからも見守ってくれていると信じて逝く背を見送りました。

生前、故人がお世話になりました皆様に心より感謝申し上げます。またご多用のところを多くの方々にご会葬いただきました。厚く御礼申し上げます。

